

# 野村ターゲットデットファンド2016

## 愛称：未来図

### 2026-2028年目標型

追加型投信／内外／資産複合／インデックス型

## 交付運用報告書

第4期(決算日2019年12月26日)

作成対象期間(2018年12月27日～2019年12月26日)

第4期末(2019年12月26日)	
基準価額	11,863円
純資産総額	114百万円
第4期	
騰落率	12.4%
分配金(税込み)合計	0円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

- 交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。
- 当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供することができる旨を定めております。運用報告書(全体版)は、野村アセットマネジメントのホームページで閲覧・ダウンロードしていただけます。
- 運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>  
右記ホームページを開く

⇒「ファンド検索」にファンド名を入力しファンドを選択  
⇒ファンド詳細ページから「運用報告書(全体版)」を選択

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、別に定める親投資信託証券への投資を通じて、主として国内および外国(新興国を含む)の各株式、国内および外国(新興国を含む)の各債券に実質的に投資を行います。信託財産の成長を目的に運用を行うことを基本とします。

ここに、当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

## 野村アセットマネジメント

東京都中央区日本橋1-12-1



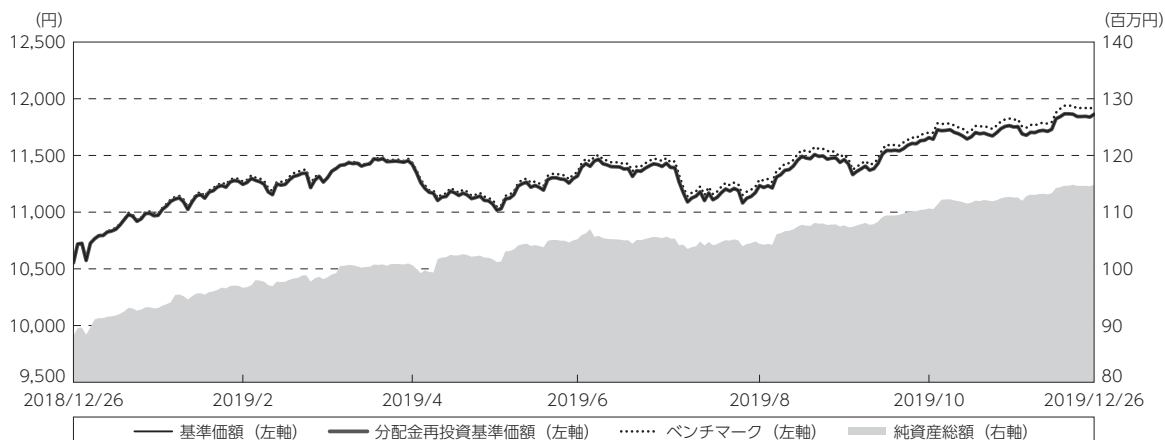
サポートダイヤル 0120-753104  
<受付時間> 営業日の午前9時～午後5時

ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

## 運用経過

## 期中の基準価額等の推移

(2018年12月27日～2019年12月26日)



期 首：10,553円

期 末：11,863円 (既払分配金(税込み)：0円)

騰落率： 12.4% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首(2018年12月26日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) ベンチマークは、各マザーファンドの対象指数の月次リターンに、ファンドの各マザーファンドへの基本投資割合を掛け合わせた合成指数です。詳細は4ページをご参照ください。ベンチマークは、作成期首(2018年12月26日)の値が基準価額と同一となるように計算しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首10,553円から期末11,863円へと上昇し、値上がり額は1,310円となりました。

投資対象とする7本のマザーファンドの当期間の値動きは、外国株式(+33.4%)、国内株式(+23.8%)、新興国株式(+18.6%)、新興国債券(+12.0%)、外国債券(為替ヘッジあり)(+5.3%)、外国債券(+5.2%)、国内債券(+1.6%)と全て上昇しました。

国内株式や外国株式などの上昇が主な値上がり要因となりました。

## 1万口当たりの費用明細

(2018年12月27日～2019年12月26日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円	%	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	( 56)	(0.495)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
(販売会社)	( 56)	(0.495)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
(受託会社)	( 6)	(0.055)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売買委託手数料	1	0.005	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	( 0)	(0.004)	
(新株予約権証券)	( 0)	(0.000)	
(投資信託証券)	( 0)	(0.000)	
(先物・オプション)	( 0)	(0.001)	
(c) 有価証券取引税	0	0.003	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株 式)	( 0)	(0.003)	
(新株予約権証券)	( 0)	(0.000)	
(投資信託証券)	( 0)	(0.000)	
(d) その他費用	2	0.021	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保管費用)	( 2)	(0.016)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監査費用)	( 0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	( 0)	(0.002)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	121	1.074	
期中の平均基準価額は、11,298円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

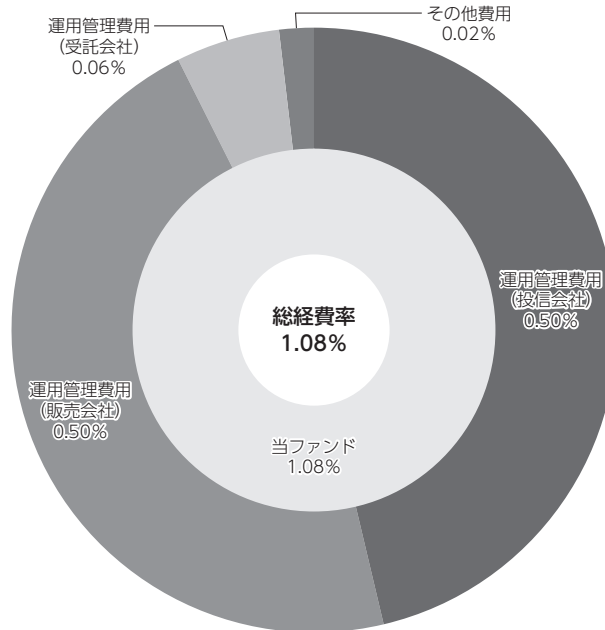
(注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## (参考情報)

## ○総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.08%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

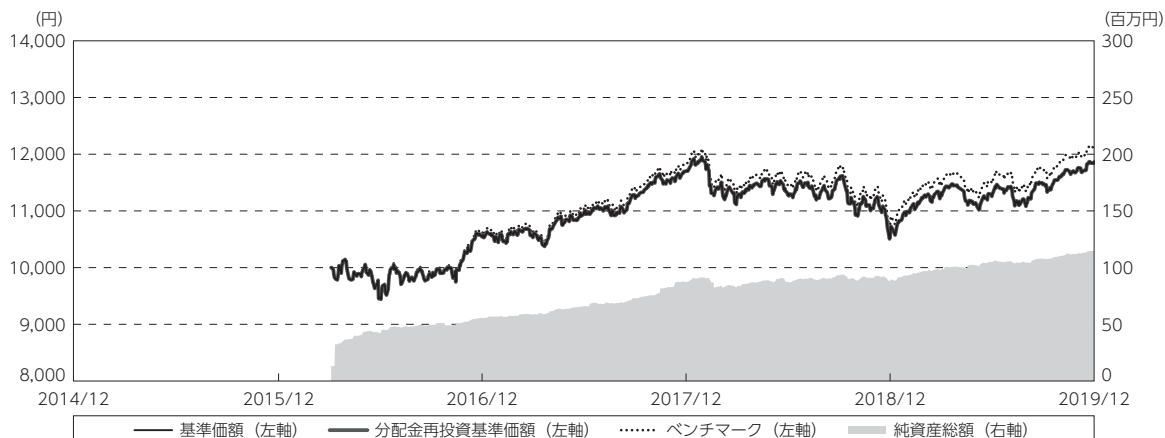
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## 最近5年間の基準価額等の推移

(2014年12月26日～2019年12月26日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。  
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。  
 (注) ベンチマークは、各マザーファンドの対象指数の月次リターンに、ファンドの各マザーファンドへの基本投資割合を掛け合わせた合成指数です。詳細は以下をご参照ください。ベンチマークは、設定時を10,000として計算しております。  
 (注) 当ファンドの設定日は2016年4月1日です。

	2016年4月1日 設定日	2016年12月26日 決算日	2017年12月26日 決算日	2018年12月26日 決算日	2019年12月26日 決算日
基準価額 (円)	10,000	10,544	11,699	10,553	11,863
期間分配金合計(税込み) (円)	—	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	5.4	11.0	△ 9.8	12.4
ベンチマーク騰落率 (%)	—	6.1	11.6	△ 9.3	13.1
純資産総額 (百万円)	13	55	87	88	114

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。  
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。  
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2016年12月26日の騰落率は設定当初との比較です。

資産	実質的な投資をするマザーファンド	各マザーファンドの対象指数
国内株式	国内株式マザーファンド	東証株価指数 (TOPIX)
外国株式 (新興国)	外国株式MSCI-KOKUSAIマザーファンド 新興国株式マザーファンド	MSCI-KOKUSAI指数 (円ベース・為替ヘッジなし) MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み・円換算ベース)
国内債券	国内債券NOMURA-BPI総合マザーファンド	NOMURA-BPI総合
外国債券 (新興国)	外国債券為替ヘッジ型マザーファンド 外国債券マザーファンド 新興国債券(現地通貨建て)マザーファンド	FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ヘッジ・円ベース) FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース) JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円換算ベース)

- \* [MSCI-KOKUSAI 指数 (円ベース・為替ヘッジなし)] は、MSCI-KOKUSAI 指数をもとに、委託会社が円換算したものです。  
 \* [MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み・円換算ベース)] は、MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み・ドルベース) をもとに、委託会社が円換算したものです。  
 \* [JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド (円換算ベース)] は、JP Morgan Government Bond Index-Emerging Markets (GBI-EM) Global Diversified (USドルベース) をもとに、委託会社が円換算したものです。

## 【当作成期間中の基本投資割合】

	2018年 12月	2019年 1月	2019年 2月	2019年 3月	2019年 4月	2019年 5月	2019年 6月	2019年 7月	2019年 8月	2019年 9月	2019年 10月	2019年 11月	2019年 12月
[国内株式マザーファンド] 東証株価指数 (TOPIX)	23.6%	23.4%	23.3%	23.1%	22.9%	22.7%	22.6%	22.4%	22.2%	22.0%	21.9%	21.7%	21.5%
[外国株式MSCI-KOKUSAI マザーファンド] MSCI-KOKUSAI指数 (円ベース・為替ヘッジなし)	14.0%	13.9%	13.8%	13.7%	13.6%	13.5%	13.4%	13.0%	12.9%	12.8%	12.7%	12.6%	12.5%
[新興国株式マザーファンド] MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み・円換算ベース)	9.6%	9.6%	9.5%	9.4%	9.3%	9.3%	9.2%	9.4%	9.3%	9.2%	9.2%	9.1%	9.0%
[国内債券NOMURA-BPI総合 マザーファンド] NOMURA-BPI総合	18.9%	19.1%	19.2%	19.4%	19.6%	19.8%	19.9%	20.1%	20.3%	20.5%	20.6%	20.8%	21.0%
[外国債券為替ヘッジ型マザーファンド] FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ヘッジ・円ベース)	18.9%	19.1%	19.2%	19.4%	19.6%	19.8%	19.9%	20.1%	20.3%	20.5%	20.6%	20.8%	21.0%
[外国債券マザーファンド] FTSE世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)	12.1%	12.0%	12.1%	12.1%	12.1%	12.0%	12.1%	12.2%	12.2%	12.2%	12.2%	12.2%	12.2%
[新興国債券 (現地通貨建て) マザーファンド] JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・ マーケット・グローバル・デバースィファイド (円換算ベース)	2.9%	2.9%	2.9%	2.9%	2.9%	2.9%	2.9%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%	2.8%

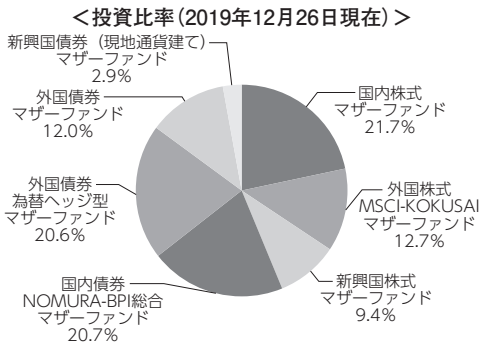
## 投資環境

(2018年12月27日～2019年12月26日)

資 産	変動要因等
国内株式	米中通商協議の進展期待や外国株式市場の上昇などを背景に、上昇しました。
外国株式	米中通商協議の進展期待から世界的な景気減速懸念が後退したこと、堅調な米企業業績などを背景に、上昇しました。為替レートは、内外長期金利差の縮小などを背景に、主要通貨は概ね対円で下落 (円高) 傾向となりました。
新興国株式	米中通商協議の進展期待や、米国・ユーロ圏における金融緩和に伴い新興国からの資金流出懸念が後退したこと、先進国株式市場の上昇などを背景に、上昇しました。主要新興国通貨は概ね対円で下落 (円高) 傾向となりました。
国内債券	日銀による低金利政策の長期化観測や、米国・ユーロ圏における金融緩和などを背景に、国内債券利回りは低下 (価格は上昇) しました。
外国債券 (為替ヘッジあり) / 外国債券	FRB (米連邦準備制度理事会) による利下げ実施や ECB (欧州中央銀行) による追加金融緩和、世界的な低インフレの継続観測などを背景に、外国債券利回りは低下 (価格は上昇) しました。為替レートは、内外長期金利差の縮小などを背景に、主要通貨は概ね対円で下落 (円高) 傾向となりました。
新興国債券	米国・ユーロ圏における金融緩和に伴い新興国からの資金流出懸念が後退したこと、トルコでの大幅利下げに加え、多くの新興国 (メキシコ、ブラジル、ロシア、タイ、インドネシアなど) で政策金利が引き下げられたことなどを背景に、新興国債券利回りは低下 (価格は上昇) しました。主要新興国通貨は概ね対円で下落 (円高) 傾向となりました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2018年12月27日～2019年12月26日)



期末の各マザーファンドへの投資比率は左記の通りとしました。また、期を通じて、7本のマザーファンドへの投資比率の合計は概ね99%以上の高位に保ちました。

マザーファンドの運用経過については、8ページをご参照ください。

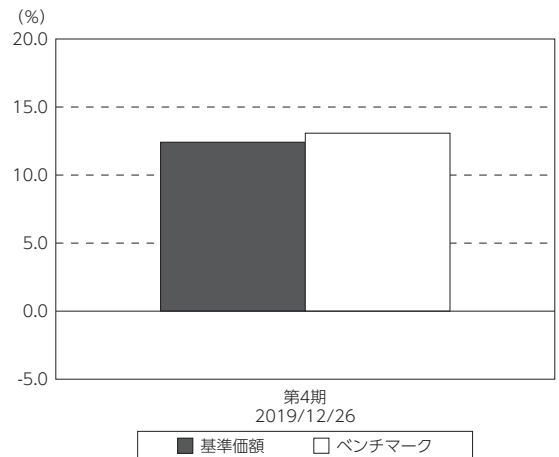
## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2018年12月27日～2019年12月26日)

基準価額の騰落率は+12.4%となり、ベンチマーク(各マザーファンドの対象指数の月次リターンに、ファンドの各マザーファンドへの基本投資割合を掛け合わせた合成指数)の+13.1%を0.7ポイント下回りました。

主なマイナス要因は、当ファンドの信託報酬及び各マザーファンドにおける売買コストや保管費用などのコスト負担です。主なプラス要因は、国内株式部分で保有銘柄の配当権利落ちにより未取配当金が計上されたことです。また、ベンチマークとファンドで評価に用いる為替レートが異なることなどから、評価上の差異が生じる場合があります。

## 基準価額とベンチマークの対比(期別騰落率)



(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) ベンチマークは、各マザーファンドの対象指数の月次リターンに、ファンドの各マザーファンドへの基本投資割合を掛け合わせた合成指数です。

**分配金**

(2018年12月27日～2019年12月26日)

- (1) 収益分配金は、基準価額水準等を勘案し決定しました。  
 (2) 留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

## ○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり・税込み)

項 目	第4期
	2018年12月27日～2019年12月26日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	— %
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,965

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

**今後の運用方針**

国内および外国(新興国を含む)の各株式、国内および外国(新興国を含む)の各債券に分散投資を行い、信託財産の長期的な成長を目的に運用を行います。これらの投資は、各資産のインデックスに連動する投資成果を目指して運用を行う7つのマザーファンドへの投資を通じて行います。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



## マザーファンドの運用経過

### [国内株式マザーファンド]

東証株価指数（TOPIX）に連動する投資成果を目指し、先物を含む実質の株式組入比率は高位に維持しました。現物株式につきましては、東証1部上場銘柄に幅広く分散投資し、個別銘柄の時価構成比がポートフォリオと東証株価指数でほぼ同水準になるように銘柄見直し及び銘柄間の投資比率調整を適宜行ってまいりました。ただし、財務評価の視点から一部の銘柄は組み入れを見合わせました。また、日々の追加設定・解約による資金移動に対しては売買にかかるコストなどを考慮し、従来通り株式先物を利用してまいりました。

### [外国株式MSCI-KOKUSAIマザーファンド]

MSCI-KOKUSAI指数（円ベース・為替ヘッジなし）の中長期的な動きを概ね捉える投資成果を目指し、株式（投資信託証券や先物を含む）組入比率は期を通じて高位に維持しました。現物株式への投資にあたっては、各銘柄への投資比率を各銘柄がMSCI-KOKUSAI指数の中で占める比率にほぼ一致させ、MSCI-KOKUSAI指数の変更（銘柄入れ替え、比率変更など）に対応して適宜ポートフォリオの見直しおよび修正を行い、また資金流入出に対しても速やかに対応しました。なお、為替ヘッジ（為替の売り予約）は行いませんでした。

### [新興国株式マザーファンド]

MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み・円換算ベース）の中長期的な動きを概ね捉える投資成果を目指すため、新興国の株式（DR（預託証券）を含む）に幅広く分散投資し、株式先物への投資も一部行いました。期中の資金流入出や「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」の変更（銘柄入れ替え、比率変更など）に対応して適宜ポートフォリオの見直しを行いました。実質株式組入比率（投資信託証券や株式先物を含む）は期を通じて高位に維持しました。なお、為替ヘッジ（為替の売り予約）は行いませんでした。

### [国内債券NOMURA-BPI総合マザーファンド]

NOMURA-BPI総合の動きに連動する投資成果を目指して運用を行い、満期構成、種別構成、デュレーション（金利感応度）、流動性などを考慮して選択した債券に分散投資しました。指数構成銘柄に変更がある毎月末において、ファンドの特性値（デュレーションなど）を指数に合わせるようにポートフォリオのリバランス（投資比率の再調整）を行いました。債券組入比率は期を通じて高位に維持しました。

### [外国債券為替ヘッジ型マザーファンド]

FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ヘッジ・円ベース）の動きに連動する投資成果を目指すため、地域構成、満期構成、デュレーション（金利感応度）、流動性などを考慮して選択した指数構成国の国債に分散投資しました。毎月末における指数構成銘柄の変更に対応し、ファンドの特性値（地域構成や平均デュレーションなど）を指数に合わせるようにポートフォリオのリバランス（投資比率の再調整）を行いました。債券組入比率は期を通じて高位に維持しました。なお、外貨建て資産については

概ねベンチマークと同様に為替ヘッジを行いました。

#### [外国債券マザーファンド]

FTSE 世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）の中長期的な動きを概ね捉えるため、通貨構成、満期構成、デュレーション（金利感応度）、流動性などを考慮して選択した指数構成国の国債に分散投資しました。毎月末における指数構成銘柄の変更に対応し、ファンドの特性値（通貨構成や平均デュレーションなど）を指数に合わせるようにポートフォリオのリバランス（投資比率の再調整）を行いました。債券組入比率は期を通じて高位に維持しました。なお、為替ヘッジ（為替の売り予約）は行っておりません。

#### [新興国債券（現地通貨建て）マザーファンド]

JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス－エマージング・マーケット・グローバル・ディバーシファイド（円換算ベース）の中長期的な動きを概ね捉えるため、通貨構成、満期構成、デュレーション、流動性などを考慮して選択した指数構成国の国債などに分散投資しました。毎月の指数構成銘柄の変更に対応し、ポートフォリオの特性値（通貨構成や平均デュレーションなど）を指数に合わせるようにリバランス（投資比率の再調整）を行いました。債券組入比率は期を通じて高位に維持しました。なお、為替ヘッジ（為替の売り予約）は行っておりません。

### ＜マザーファンドの対象指数について＞

- \* TOPIXの指数値及びTOPIXの商標は、株式会社東京証券取引所（以下「東証」といいます。）の知的財産であり、株価指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利及びTOPIXの商標に関するすべての権利は東証が有します。東証は本ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。
- \* MSCI指数は、MSCIが独占的に所有しています。MSCI及びMSCI指数は、MSCI及びその関係会社のサービスマークであり、野村アセットマネジメント株式会社は特定の目的のためにその使用を許諾されています。ここに記載されたいかなるファンドも、MSCI、MSCIの関連会社及びMSCI指数の作成または編集に関与あるいは関係したその他の当事者のいかなる者がその合法性および適合性に関して判断したのではなく、また、これを発行、後援、推奨、販売、運用または宣伝するものでもなく、ここに記載されたいかなるファンドに關していかなる保証も行わず、いかなる責任も負いません。請求目録見書には、MSCIが野村アセットマネジメント株式会社およびその関連するファンドと有する限定的な関係について、より詳細な記述があります。
- \* NOMURA-BPI総合は、野村證券株式会社が作成している指数で、当該指数に関する一切の知的財産権とその他一切の権利は野村證券株式会社に帰属しております。また、野村證券株式会社は、当該インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。
- \* FTSE世界国債インデックス（除く日本、円ヘッジ・円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
- \* FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。
- \* 本書に含まれるJP モルガンのインデックス商品（インデックスのレベルも含みますが、これに限られません。）（以下、「本インデックス」といいます。）に関する情報（以下、「当情報」といいます。）は、情報の提供のみを目的として作成したものであり、金融商品の募集・勧誘若しくはその一部を構成し、又は本インデックスが参照する取引又は商品の価値若しくは価格を公式に確認するものではありません。当情報は、いかなる投資戦略の採用を推奨するものでもなく、法令、税務又は会計上の助言を行うものではありません。当情報に含まれる市場価格、データその他の情報は、信頼できると思われるものですが、その完全性及び正確性を保証するものではありません。当情報の内容については、今後予告なく変更されることがあります。当情報に含まれる実績は過去のものであって将来の運用成果を示すものではなく、将来の運用成績は変化します。JP モルガン、その関係会社又はそれらの従業員は、本インデックスの発行体のデータに係る金融商品について自己のポジション（ロング若しくはショート）を有し、取引を行い、又はそのマーケット・メイカーとして行為している可能性があるほか、かかる発行体の引受人、販売代理人、アドバイザー又は貸主となっている可能性があります。ジェー・ピー・モルガン・セキュリティーズ・エルエルシー（以下、「JPMSL」又は「インデックス・スポンサー」といいます。）は、本インデックスにおいて参照する証券、金融関連商品又は取引（以下「該商品」といいます。）を、賛助し、支持し、又はその他の方法で勧誘するものではありません。インデックス・スポンサーは、証券や金融関連商品一般に投資すること若しくは個別の該商品に投資することの有用性について、又は金融市場における投資機会を追跡記録し、若しくは目的を達成するための本インデックスの有用性について、明示黙示を問わず、何らの表明又は保証をするものではありません。インデックス・スポンサーは、該商品の管理、マーケティング又は取引に関連して、何らの責任又は義務を負いません。本インデックスは、信頼できると思われる情報に基づいて作成されたものですが、インデックス・スポンサーは、その完全性及び正確性並びに本インデックスに関連して提供されるその他の情報に責任を負うものではありません。本インデックスは、インデックス・スポンサーに帰属し、インデックス・スポンサーが一切の財産権を保持します。JPMSLは、全米証券業者協会、ニューヨーク証券取引所及び米国証券投資家保護公社の会員です。「JP モルガン」は、ジェー・ピー・モルガン・チェース・バンク・エヌ・イー、JPMSL、ジェー・ピー・モルガン・セキュリティーズ・リミテッド（英国金融監督庁認可、ロンドン証券取引所会員）及びその投資銀行業務関連会社の投資銀行業務についてのマーケティング上の名称です。当情報に関して追加で必要な情報がありましたらお問い合わせください。当情報に関するご連絡は、[index.research@jpmorgan.com](mailto:index.research@jpmorgan.com)宛にお願いします。当情報に関する追加の情報については、[www.morganmarkets.com](http://www.morganmarkets.com)もご覧ください。当情報の著作権は、ジェー・ピー・モルガン・チェース・アンド・カンパニーに帰属します。

## お知らせ

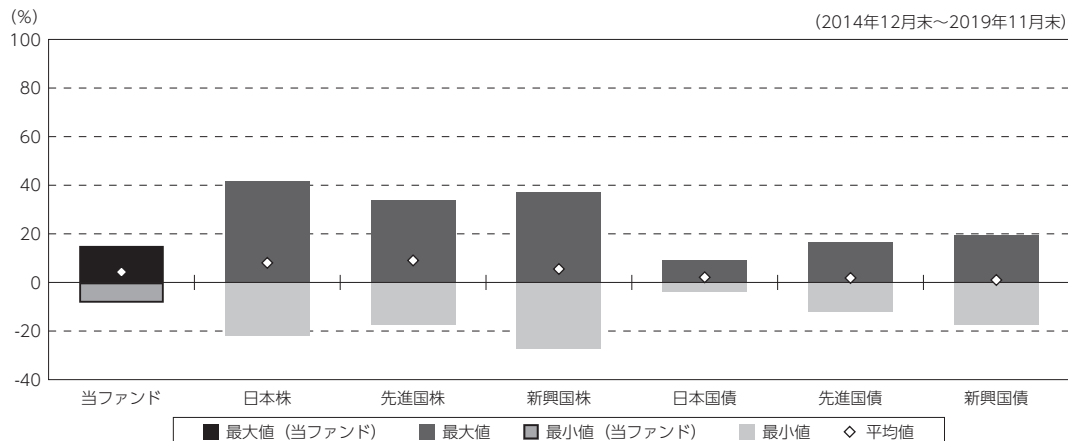
該当事項はございません。

## 当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／インデックス型
信託期間	2016年4月1日から2029年3月16日までです。
運用方針	<p>別に定める親投資信託証券への投資を通じて、国内および外国（新興国を含む）の各株式、国内および外国（新興国を含む）の各債券に実質的に投資し、信託財産の成長を目的に運用を行うことを基本とします。「投資基礎期」、「資産形成期」、ターゲット時期を含む「目標前準備期」を定め、各期間毎に株式および債券の配分比率（以下「株式・債券配分」といいます。）を変化させます。また、各期間において、株式・債券配分および各親投資信託証券への基本となる投資割合（以下「基本投資割合」といいます。）を定期的に変更します。なお、ターゲット時期は2026年から2028年とします。各期間における株式・債券配分および各親投資信託証券への基本投資割合の最終決定は、家計や市場の構造変化等を考慮した上で行います。</p> <p>「投資基礎期」は信託契約締結日から2017年12月までの期間、「資産形成期」は2018年1月から2022年12月までの期間、「目標前準備期」は2023年1月以降とします。</p> <p>投資を行う親投資信託証券は、原則として、金融指標の動きに連動する投資成果を目指すものとし、別に定める親投資信託証券の中から、市場構造等を勘案し、各期間の株式・債券配分の範囲内で各親投資信託証券への投資比率を決定します。なお、一部の親投資信託証券への投資比率がゼロとなる場合があります。また、基本投資割合の変更に際し、新たに親投資信託証券を投資対象に追加する場合があります。</p> <p>実質組入外貨建て資産については、為替ヘッジを行う親投資信託証券を通じて投資する部分を除き、原則として為替ヘッジを行いません。ただし、2023年1月以降、安定運用を行う場合においては為替ヘッジを行う場合があります。</p>
主要投資対象	別に定める親投資信託証券を主要投資対象とします。なお、株式、公社債および短期有価証券等に直接投資する場合があります。また、国内外の株価指数先物取引、債券先物取引等の有価証券先物取引等および為替予約取引等を取引対象とします。
運用方法	別に定める親投資信託証券への投資を通じて、主として国内および外国（新興国を含む）の各株式、国内および外国（新興国を含む）の各債券に実質的に投資を行います。信託財産の成長を目的に運用を行うことを基本とします。
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等から基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

## (参考情報)

## ○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	15.0	41.9	34.1	37.2	9.3	16.4	19.3
最小値	△ 8.3	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	4.3	8.1	9.0	5.5	2.1	1.8	1.0

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2014年12月から2019年11月の5年間(当ファンドは2017年4月から2019年11月)の各月末における1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

(注) 当ファンドは基本投資割合を変更することから、投資者に誤解を生じさせる懸念があるためベンチマーク(合成指数)の騰落率は掲載しておりません。

## 《代表的な資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株：MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

新興国債：JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースィファイド(円ベース)

※各指数についての説明は、後述の「代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

## 当ファンドのデータ

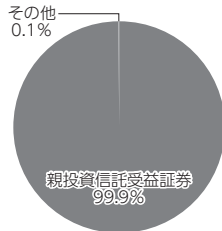
## 組入資産の内容

(2019年12月26日現在)

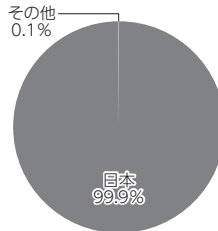
## ○組入上位ファンド

銘柄名	第4期末
	%
国内株式マザーファンド	21.7
国内債券NOMURA-BPI総合マザーファンド	20.7
外国債券為替ヘッジ型マザーファンド	20.6
その他	37.0
組入銘柄数	7銘柄

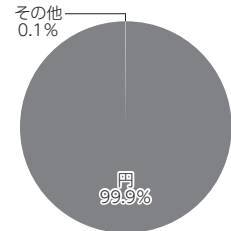
## ○資産別配分



## ○国別配分



## ○通貨別配分



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 純資産等

項目	第4期末
	2019年12月26日
純資産総額	114,820,336円
受益権総口数	96,787,643口
1万円当たり基準価額	11,863円

(注) 期中における追加設定元本額は16,232,168円、同解約元本額は3,027,760円です。

## 組入上位ファンドの概要

## 国内株式マザーファンド

運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

## 【基準価額の推移】

(2018年5月11日～2019年5月10日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2018年5月11日～2019年5月10日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (株 式 ) (先物・オプション)	0 (0) (0)	0.001 (0.000) (0.001)
合計	0	0.001

期中の平均基準価額は、16,358円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

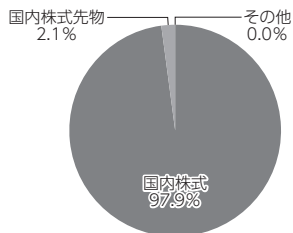
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 【組入上位10銘柄】

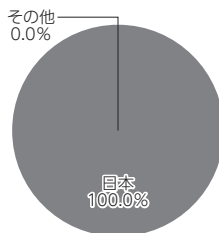
(2019年5月10日現在)

銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国(地域)	比率
1 トヨタ自動車	輸送用機器	円	日本	3.2%
2 TOPIX 1906	株式先物(買建)	円	日本	2.1
3 ソフトバンクグループ	情報・通信業	円	日本	2.0
4 武田薬品工業	医薬品	円	日本	1.6
5 ソニー	電気機器	円	日本	1.6
6 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	円	日本	1.6
7 キーエンス	電気機器	円	日本	1.4
8 日本電信電話	情報・通信業	円	日本	1.4
9 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	円	日本	1.2
10 本田技研工業	輸送用機器	円	日本	1.1
組入銘柄数		2,125銘柄		

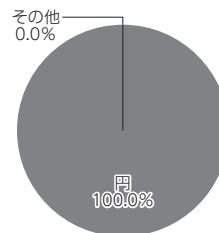
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国(地域)および国別配分は、原則として発行国(地域)もしくは投資国(地域)を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## 国内債券NOMURA-BPI総合 マザーファンド

運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

## 【基準価額の推移】

(2018年4月3日～2019年4月1日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2018年4月3日～2019年4月1日)

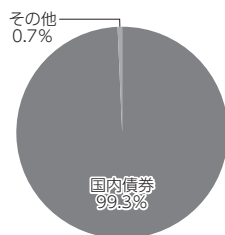
該当事項はございません。

## 【組入上位10銘柄】

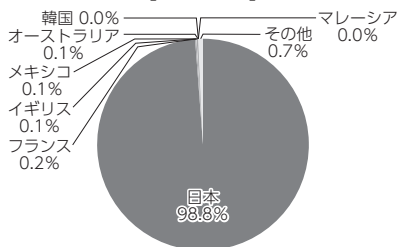
(2019年4月1日現在)

順位	銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率 %
1	国庫債券 利付(5年)第126回	国債	円	日本	1.1
2	国庫債券 利付(5年)第125回	国債	円	日本	1.1
3	国庫債券 利付(10年)第350回	国債	円	日本	1.1
4	国庫債券 利付(10年)第345回	国債	円	日本	1.0
5	国庫債券 利付(5年)第127回	国債	円	日本	0.9
6	国庫債券 利付(10年)第334回	国債	円	日本	0.9
7	国庫債券 利付(10年)第351回	国債	円	日本	0.9
8	国庫債券 利付(10年)第332回	国債	円	日本	0.8
9	国庫債券 利付(10年)第329回	国債	円	日本	0.8
10	国庫債券 利付(10年)第346回	国債	円	日本	0.8
組入銘柄数		1,012銘柄			

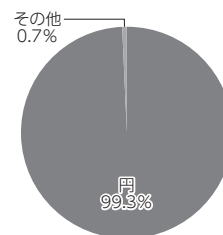
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国 (地域) および国別配分は、原則として発行国 (地域) もしくは投資国 (地域) を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報は、運用報告書 (全体版) に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。



## 外国債券為替ヘッジ型マザーファンド

運用経過等に関する詳細な内容につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

## 【基準価額の推移】

(2018年9月7日～2019年9月6日)



## 【1万口当たりの費用明細】

(2018年9月7日～2019年9月6日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) その他費用 ( 保管費用 ) ( その他 )	2 (2) (0)	0.015 (0.015) (0.000)
合計	2	0.015

期中の平均基準価額は、11,463円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書（全体版）をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

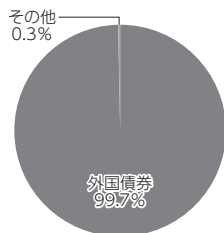
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## 【組入上位10銘柄】

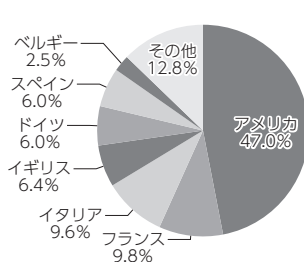
(2019年9月6日現在)

銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率
1 US TREASURY N/B 2.125% 2021/8/15	国債	米ドル	アメリカ	1.1%
2 US TREASURY BOND 3.75% 2043/11/15	国債	米ドル	アメリカ	0.8%
3 US TREASURY N/B 2.75% 2028/2/15	国債	米ドル	アメリカ	0.8%
4 UK TREASURY 4.25% 2046/12/7	国債	英ポンド	イギリス	0.8%
5 US TREASURY N/B 3% 2048/2/15	国債	米ドル	アメリカ	0.8%
6 US TREASURY N/B 1.625% 2026/5/15	国債	米ドル	アメリカ	0.8%
7 FRANCE (GOVT OF) 1.75% 2023/5/25	国債	ユーロ	フランス	0.8%
8 US TREASURY N/B 2.25% 2024/11/15	国債	米ドル	アメリカ	0.8%
9 US TREASURY N/B 2% 2024/6/30	国債	米ドル	アメリカ	0.7%
10 US TREASURY N/B 2.375% 2021/4/15	国債	米ドル	アメリカ	0.7%
組入銘柄数		427銘柄		

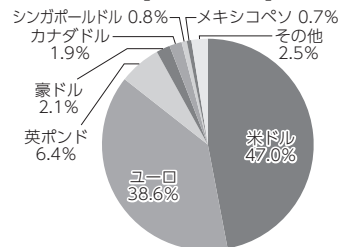
## 【資産別配分】



## 【国別配分】



## 【通貨別配分】



(注) 比率は純資産総額に対する割合です。資産の状況等によっては合計が100%とならない場合があります。

(注) 国 (地域) および国別配分は、原則として発行国 (地域) もしくは投資国 (地域) を表示しております。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等は、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

## <代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数について>

### ○東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

東証株価指数 (TOPIX) (配当込み) は、株式会社東京証券取引所 (㈱東京証券取引所) の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利は、(㈱東京証券取引所) が有しています。なお、本商品は、(㈱東京証券取引所) により提供、保証又は販売されるものではなく、(㈱東京証券取引所) は、ファンドの発行又は売買に起因するいかなる損害に対しても、責任を有しません。

### ○MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)

### ○MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース)

MSCI-KOKUSAI 指数 (配当込み、円ベース)、MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円ベース) は、MSCI が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利は MSCI に帰属します。また MSCI は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

### ○NOMURA-BPI 国債

NOMURA-BPI 国債の知的財産権は、野村證券株式会社に帰属します。なお、野村證券株式会社は、NOMURA-BPI 国債の正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、NOMURA-BPI 国債を用いて行われる野村アセットマネジメント株式会社の事業活動、サービスに関し一切責任を負いません。

### ○FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース)

FTSE 世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし・円ベース) は、FTSE Fixed Income LLC により運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数は FTSE Fixed Income LLC の知的財産であり、指数に関するすべての権利は FTSE Fixed Income LLC が有しています。

### ○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)

「JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (円ベース)」(ここでは「指数」とよびます) についてここに提供された情報は、指数のレベルも含め、但しそれに限定することなく、情報としてのみ使用されるものであり、金融商品の売買を勧誘、何らかの売買の公式なコンファメーション、或いは指数に関連する何らかの商品の価値や値段を決めるものでもありません。また、投資戦略や税金における会計アドバイスを法的に推奨するものでもありません。ここに含まれる市場価格、データ、その他の情報は確かなものと考えられますが、JPMorgan Chase & Co. 及びその子会社 (以下、JPM) がその完全性や正確性を保証するものではありません。含まれる情報は通知なしに変更されることがあります。過去のパフォーマンスは将来のリターンを示唆するものではありません。本資料に含まれる発行体の金融商品について、JPM やその従業員がロング・ショート両方を含めてポジションを持って、売買を行ったり、またはマーケットメイクを行ったりすることがあり、また、発行体の引受、プレースメント、エージェンシー、アドバイザー、または貸主になっている可能性もあります。

米国の J.P. Morgan Securities LLC (ここでは「JPMSLLC」と呼びます) (「指数スポンサー」) は、指数に関する証券、金融商品または取引 (ここでは「プロダクト」と呼びます) についての援助、保障または販売促進を行いません。証券或いは金融商品全般、或いは特にプロダクトへの投資の推奨について、また金融市場における投資機会を指数に連動させる或いはそれを目的とする推奨の可否について、指数スポンサーは一切の表明または保証、或いは伝達または示唆を行なうものではありません。指数スポンサーはプロダクトについての管理、マーケティング、トレーディングに関する義務または法的責任を負いません。指数は信用できると考えられる情報によって算出されていますが、その完全性や正確性、また指数に付随する情報について保証するものではありません。指数は指数スポンサーが保有する財産であり、その財産権はすべて指数スポンサーに帰属します。

JPMSLLC は NASD, NYSE, SIPC の会員です。JPMorgan は JP Morgan Chase Bank, NA, JPSI, J.P. Morgan Securities PLC., またはその関係会社が投資銀行業務を行う際に使用する名称です。

(出所：株式会社野村総合研究所、FTSE Fixed Income LLC 他)



### <お申し込み時の留意点>

販売会社の営業日であってもお申し込みの受付ができない日（以下「申込不可日」といいます。）があります。

お申し込みの際には、これらの申込不可日に該当する日をご確認のうえ、お申し込みいただきますようお願いいたします。

(2019年12月26日現在)

年 月	日
2019年12月	—
2020年1月	17、20
2月	14、17
3月	—
4月	9、10
5月	22、25
6月	—
7月	2、3
8月	—
9月	4、7
10月	9、12
11月	10、11、25、26
12月	24、25

※2020年12月までに該当する「申込不可日」を現時点で認識しうる情報をもとに作成しておりますが、諸事情等により突然変更される場合があります。

したがって、お申し込みにあたってはその点についても十分ご注意ください。また、諸事情等による申込不可日の変更は、販売会社に連絡いたしますので、お問い合わせ下さい。

なお、弊社ホームページ (<http://www.nomura-am.co.jp/>) にも掲載いたしております。